

Title	企業戦略と情報システム - セブンイレブン・ジャパンの戦略的情報システム -
Sub Title	
Author	赤川元昭 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第659号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0659

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

企業戦略と情報システム

— セブンイレブン・ジャパンの戦略的情報システム —

戦略的情報システムが、真に戦略的な影響力と持続性をもつためには何が必要なのか？従来言われてきた、他社に先行する情報技術の積極的導入は、必ずしもSIS 実現のためのクリティカル・ファクターとはなり得ない。SIS の事例の多くから見られる特徴は、1. 外部環境のとり込みと2. 適応力と効率性の両立であり、これら2つの特徴はSIS の競争力の源泉であるようにも思われる。しかし、外部環境のとり込みは経営資源活用の可能性と参入障壁形成の可能性を高めると同時にコントロールの困難性という問題を提示する。また、適応力と効率性は競争力強化の因子でありながら、従来から、根本的なトレードオフの関係にあると解釈されてきた。真に競争力をもち得るSIS のクリティカル・ファクターとはこの2つのトレードオフの解決と密接な関連がある。また、クリティカル・ファクターを組織面から考察すると、従来とりあげられてきた情報技術の同化問題の大部分は現在、解消されているものと考えられ、むしろ組織ベクトルの遠心力と求心力というトレードオフの解決に強い関連がある。つまり、情報技術はSIS のクリティカル・ファクターのどの部分にも含まれておらず、SIS 実現の支援的役割を果たすものにすぎないと言える。具体的には、セブンイレブン・ジャパンという1つの素材をとりあげて、3つのクリティカル・ファクターを検討した結果、成長力と統制力というKFS の下に、これら3つのクリティカル・ファクターのもつトレード・オフはネットワーク、ソフトウェア、フィールドサービスという事業コンセプトのなかで見事に解決されていることが確認される。